

ワンダーシップ表彰について

“Wonder”な功績を残された方に対し、「ワンダーシップ表彰」を行なう。航海会議にてWonder Ship授与審査をする。

WONDERSHIP 1

Jリーグ創設の功労者 川淵 三郎 氏

ワンダーシップの立ち上げの趣旨にご賛同くださり、記念講演を引き受ける。

その座右の銘「斃れて後已む」はワンダーシップの歌の歌詞にも引用された。

WONDERSHIP 2

岡山大学 大学病院教授 那須 保友 氏

木原文男初代船長の主治医として彼の希望の灯となる。木原クルーは岡山で受けた最先端治療を誇りに旅立つが、教授は後に前立腺癌に遺伝子治療の道を開くパイオニアとなった。

WONDERSHIP 3

バンクーバーオリンピック、炎の解説者 小林 宏 氏

日本のカーリング界に夜明けをもたらしたワンダーな男。自費でカーリング施設を造り、競技の普及と選手育成に尽力。五輪直後の例会で熱弁を振るった。

WONDERSHIP 4

横綱 白鵬 翔 氏

ワンダーシップメンバー竹内昌彦がモンゴルに建てた、視覚障害者のための職業支援学校の開校報告祝賀会にお祝いのビデオレターを届ける。その夏には、ウランバートルの現地を異例の訪問。竹内、職員、生徒らを勇気付けた。

WONDERSHIP 5

岡山理科大学 准教授 山本 俊政 氏

淡水魚と海水魚が共に生活できる好適環境水を開発。海水魚の陸上養殖を可能にし、砂漠の真ん中に養殖場を作る夢を追う。人類の食料危機を救う貴重な研究。

WONDERSHIP6

(一社) エネルギーから経済を考える

経営者ネットワーク会議 代表理事 鈴木 悌介 氏
東北震災を機に経済人の立場から脱原発を唱える。自然エネルギーの普及のための経営者のネットワークを立ち上げ、本当の社会の豊かさを求め行動。

WONDERSHIP7

ロサンゼルスオリンピック 金メダリスト 森末 慎二 氏
ロサンゼルス五輪で、体操種目別鉄棒で10点満点を出し金メダル、跳馬では銀メダル、団体では銅メダルと3つのメダルを獲得。また映画「見えないから見えたもの」にも出演。

WONDERSHIP8

(一社) 日本ディスコン協会 会長 桧山 武雄 氏
「ディスコン」を発明し、その楽しさを全国に広め、全国大会を開催。人々の新しい人生を広げ、生涯スポーツ振興の一翼を担う活動を展開。

WONDERSHIP9

ウルトラマラソンの女王 貝畑 和子 氏
30代でマラソンに出会う。ガンを克服し多数の大陸横断ウルトラマラソンを完走。がん撲滅マラソンへの参加や視覚障害者伴走ランナーとしても活躍。

WONDERSHIP10

平林金属男子ソフトボール部 副キャプテン 松田 光 氏
日本リーグでMVP多数選出。投手では最多勝、打者としては首位打者、本塁打王、打点王等、受賞多数の二刀流。日本が誇るソフトボール界の至宝。

WONDERSHIP11

真備町支える会

内藤さんをはじめとする会のメンバーは、西日本豪雨の被災地真備地区で濁流に飲み込まれ取り残された後輩の母親の救助依頼をきっかけに、自身の危険を省みず、水上バイクで約15時間にわたり120人を超える住民の救助活動を行い、多くの人命を救った。

WONDERSHIP12

バレーボール全日本女子代表 荒木 絵里香 氏
倉敷市出身の全日本女子バレー選手。2008年北京オリンピック代表、2012年ロンドンオリンピックでは主将として銅メダル獲得に貢献。2013年結婚、出産し、猛トレーニングで産後わずか5ヶ月のスピード復帰。2016年リオオリンピック代表で出場。母親として幼い娘を残してバレーに打ち込むことに対し葛藤し、娘の為にバレーを頑張ると語る、最強のママさんプレーヤー。

WONDERSHIP13

NPO法人みらい予想図 山崎 理恵 氏
重度の肢体不自由と重い知的障害のある子供などを対象にしたデイサービス施設を高知市に開設。全盲で重障障害のある12歳の次女を育てる中で、同じ境遇にある親たちが支えあい安らぐ場所をつくった。今の事業は通過点であり、どんな人も共存できる笑顔で過ごせる場所が最終目標と話す。

WONDERSHIP14

もんげーバナナ開発 田中 節三 氏
岡山産バナナ「もんげーバナナ」開発者。日本国内で熱帯果樹を栽培可能にした「凍結解凍覚醒法」は、植物栽培の革命。今後の農業を変えていく画期的な方法を生み出した。

WONDERSHIP15

竹内 糸子 氏
竹内昌彦氏の妻として、長年氏を支え続けている。竹内昌彦氏は幼少期に失明し全盲となり、岡山県立岡山盲学校の元教頭。全国で「いじめ」や「命の大切さ」をテーマに講演活動を行い、その数は20年間で2000回以上。聴衆はのべ20万人を超え、その寄付金を元にモンゴルやキルギスの途上国に盲学校を設立し、視覚障害者支援を行っている。

WONDERSHIP16

渋川動物公園園長 宮本 純男 氏
生きた動物とふれあう動物園をつくろうと、ショベルカーを操って山を切り開き、井戸を掘り、土地の購入や融資などの苦勞の末、構想から約10年、1989年3月に開園した。

約80種600匹・羽を放し飼いし、「動物のありのままの姿に出会える」園は30周年を迎えた。

WONDERSHIP17

備前岡山京橋朝市

岡山藩の水陸交通の要として栄えた旭川・京橋の賑わいを取り戻そうと平成元年にスタートし、毎月第1日曜日と12月には29日にメ市を開催。一度も休むことなく開催を続け、2018年に30周年を迎えた。当初は30店舗しかなかったが、今では130店舗になり、新鮮な野菜・果物・魚が買え、人と人の大切な交流の場となっている。

WONDERSHIP18

岡山大学医学部名誉教授 岡田 茂 氏

ミャンマー（旧ビルマ）で近代医療に通じた将来の医療リーダーを育成し、東南アジアの医療近代化の一端を担ってもらおうと、2006年3月に日本・ミャンマー間の医療協力と人材育成のためのNPOを設立された。また、竹内昌彦氏の途上国の視覚障害者への支援事業に協力している。

WONDERSHIP19

岡山シーガルズ主将 山口 舞 氏

バレーボールVリーグ女子の岡山シーガルズのエースとして、主将としてチームを支え、岡山の地を愛し、引退会見には多くのファンに感動を与えた。全日本女子代表メンバーとしても、2010年世界選手権、2012年ロンドンオリンピックでも輝かしい成績を残され、Vリーグ女子では通算出場セット数、通算出場試合数の新記録を更新した。

WONDERSHIP20

女子プロゴルファー 渋野 日向子 氏

女子ゴルフの国内四大大会第1戦、ワールド・サロンパス・カップで、岡山市出身の渋野日向子が通算12アンダーの276でツアー初優勝。岡山県ゴルフ協会によると、県出身者の四大大会制覇は初めて。20歳178日での大会制覇は史上最年少。

WONDERSHIP21

笠岡校サイエンス部3年 植松 蒼 氏

「セミは地上に出てから1週間程度しか生きられない」という俗説を1カ月くらい生きていたことを独自の野外調査で証明した。捕獲したセミ863匹にマーキングし、15匹を再捕獲、4匹を再再捕獲して最長生存確認記録はアブラゼミが32日間だった。調査の手法と結果を5月に広島大学で開かれた「中四国地区生物系三学会合同大会」で報告。高校生部の（動物分野）で最優秀賞を受賞した。

WONDERSHIP22

津山市の中学校教諭 槇原 淳幹 氏

生後10か月の時に事故で右腕が動かなくなり、残された左腕で努力し、新見高校時代に軟式野球全国大会で優勝。岡山大学でもキャプテンを務めるなど野球一筋に打ち込んできた。中学時代から、障がい者野球チーム「岡山桃太郎」に入団し、エースとして活躍。家族と呼び合う仲間と共にチームを全国優勝へと導いた。現在は津山市の中学校教諭になり、子供たちに大好きな野球を教えている。

WONDERSHIP23

山陽女子中学校・高等学校 地歴部

2008年から岡山県沿岸の瀬戸内海で地元漁師らの協力を得ながら海底ごみを回収。発生源や漂流経路を調べ公民館での出前授業などで環境浄化の啓発活動にも取り組んでいる。水環境の向上に貢献した団体個人に贈られる第21回日本水大賞で最高賞の大賞を受賞。2018年ジャパンSDGsアワードの特別賞も受賞している。

WONDERSHIP24

池田動物園 ライオン モジロウ

モジロウ（♂）は2019年8月で20歳となる。百獣の王ライオンは運が良ければ12歳くらいまで生きる一方、およそ半数が2歳までにこの世を去る。そんな野生の雄ライオンに対し、池田動物園のモジロウは別の生涯を送っているとはいえ、20歳という年齢はワンダーという他ない。これからも岡山の子どもたちに「命の大切さ」を、大人たちに「生き抜く力」を伝え続けてほしい。

WONDERSHIP25

天満屋女子陸上部監督 武富 豊氏

2020東京五輪女子マラソン代表となった前田穂南選手をはじめ山口衛里選手、坂本直子選手、中村友梨香選手、地元岡山県出身の重友梨佐選手とオリンピック代表選手を日本女子実業団では最多となる5人輩出された。

WONDERSHIP26

岡山市立操山中学校 ボランティア委員会

2010年3月18日に点字ブロックの石碑が建立されてから10年間、毎月石碑とその周辺の清掃活動を続けてこられた。そのおかげで、石碑は国道を歩き交う人々に大切なメッセージを送り続けることが出来ている。中学生は順次入れ替わっていくが、卒業する生徒たちの「大切なことに参加している」という自らの思いが後輩たちにも引き継がれ、10年の成果となっている。

WONDERSHIP27

JR岡山駅

点字ブロックを守る活動を積極的に支援してこられた。駅ホームでの放送、「黄色い線まで」の言葉を「黄色い点字ブロックまで」と変更したが、今では全国の駅構内放送へと広がっている。重要なターミナル駅なので多くの障害者が介助を求めているが、利用者の方々からは異口同音に「岡山駅での対応は親切で的確であり最高でした」と言われている。最近「視覚障害者への声かけ」をお願いするポスターも設置してくれた。

WONDERSHIP28

筑波大学付属視覚特別支援学校（附属盲学校）

高等部3年 近藤 悠斗氏

岡山県立盲学校出身で先天性網膜分離症の近藤君は、視覚障害者として生活する中で感じる「壁」と「共生」についての考えを、人種差別と闘った南アフリカの元大統領ネルソン・マンデラ氏の姿と重ね、「共に生きるということ」という題名で「自由への長い道：ネルソン・マンデラ自伝 上・下」の読書感想文を書き、第65回青少年読書感想文全国コンクールで内閣総理大臣賞（最優秀賞）を受賞した。

WONDERSHIP29

沖新一座

350年前、岡山藩主 池田光政は藩を豊かにしようと、津田永忠に沖新田の干拓を命じた。が、この工事は困難を極め、おキタという若い娘が人柱となることで無事終了した。その後も先人たちの苦勞の甲斐あって人々が穏やかに暮らせる土地となった。このような事実を後世まで伝えようと、劇団を作り公演を重ねられている。

WONDERSHIP30

岡山に夜間中学をつくる会 代表：城之内庸仁氏

2017年4月に岡山県下初の自主夜間中学を立ち上げられたが、当初は生徒もボランティアも集まらず苦勞をされた。その甲斐あって、現在では生徒100人超、ボランティア40人で授業料の徴収をせずに運営をしている。義務教育を受けたかたけれども事情があり受けることが出来なかった人の受け皿となっている。

WONDERSHIP31

岡山大学教育学部附属中学校 野中 美和氏

点字ブロックは視覚障害者が外出する際、頼りにするもので、その上や周りに自転車などが置かれていると、おつかってケガをしたり白杖を折ったりすることを知り、自宅周辺の点字ブロックの破損や経年劣化等を調査し、危険度の高い地点を発見し、問題提起のため操山公民館に現場写真を展示した。

WONDERSHIP32

女子アスリート（ソフトボール・野球選手） 原田のどか氏

岡山県出身。小学3年で軟式野球を始め、中学は硬式野球のクラブチームでプレー。高校ではソフトボール部に所属しながら、高2で2008年女子野球ワールドカップの日本代表1番ライトで初優勝に貢献。ソフトボールでは、国内屈指の守備力と日本リーグでホームラン王に輝くなど長打力もあり、2020東京オリンピック・ソフトボール女子日本代表で金メダルに輝く。ソフトボールと野球の両競技で世界一に輝いた世界唯一の選手。

WONDERSHIP33

一般社団法人 日本記念日協会 代表理事 加瀬 清志 氏
放送作家として記念日を研究。日本記念日協会を長野県佐久市に設立し、地方発で企業、自治体の活性化を支援し、大切な記念日を記憶し共有するという、心が通い合う社会づくりに貢献。竹内昌彦先生が中心となり、ワンダーシップが支援する点字ブロックの普及、啓蒙活動を支援し、「点字ブロックの日」記念日を特別に無料で認定。それ以来、映画「見えないから見えたもの」へのシナリオ提供、多額の協賛、発展途上国の子供たちの目を治療する「ヒカリカナタ基金」への協力等、継続的に支援を続ける。

WONDERSHIP34

自閉症画家とその両親 石村 嘉成・和徳（父）・有希子（母）
2歳で自閉症による発達障害と診断。両親は全身全霊を注ぎ「療育」に取り組む。心を鬼にして「愛に溢れた、突き放し」で接するなど、献身的に「療育」に挑み、多数のレポートを残す。有希子さんは毎日授業に付き添うなどしていたが、がんにより40歳で他界。その後は和徳さんが有希子さんの「想い」を繋ぎ我が子と向き合う。嘉成さんは画家として特別な才能を発揮し、多くの人の心を揺さぶる絵画を描き続けている。和徳さんは企業経営の傍ら、絵画個展のプロデュース、亡き妻と共に取り組んだ「療育」による子どもとの向き合い方を伝える講演活動を続けている。

WONDERSHIP35

特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金 理事長 竹内 昌彦 氏
過去30年間で全国2,500回に上る障害者の人権理解に関する講演活動を行い、講師謝金や募金などを元に、視覚障害者のための職業訓練学校を2011年にモンゴル、2015年キルギスに設立。モンゴルの学校は、国営専門学校として認定され、モンゴル大統領叙勲「友好賞」を贈呈される。岡山市郊外に「点字ブロック世界発祥の碑」を建立し、同時に日本記念日協会に働きかけ「点字ブロックの日」を制定、小学4年生の道徳教科書にも掲載された。また活動に感銘を受けた人々の発案で、著書「見えないから見えたもの」の映画化が実現。幾度となく訪問した発展途上で、僅かな治療費がないため、多くの視覚障害者の子供たちが放置さ

れていることに気付き、治療費を送るために「ヒカリカナタ基金」を設立し、モンゴル、キルギス、ネパール、ミャンマー、カンボジアにおいて小児眼科医療プロジェクトを実施。1000人治療を目標に、現在その半数近くの失明危機の子供たちを治療し、ヒカリを届けている。

WONDERSHIP36

RSK山陽放送ディレクター 石原 正裕 氏
高校野球に魅了され、仕事の傍ら高校野球の素晴らしさを発信し続けている。高校球児のユニホームは、ネットオークションばかりでなく、収集家同士で物々交換したり、学校関係者や元選手から「研究に使って」と譲り受けたり、レプリカを含めて、ゆうに600着を超える。全国高校野球選手権大会の歴代優勝校61校を全て収集。高校野球に関する文献を調べ、対戦秘話等を含めてユニホームにまつわる地域性や文化を紹介している。

WONDERSHIP37

岡山大学教育学部附属中学校 板東 郁仁 氏
小学4年生の時に偶然出会った古墳をきっかけにその魅力にはまり、1500を越える古墳を調査。自分が探究するだけでなく、岡山の古墳の魅力を広く伝えるガイドブック作成の必要を感じ、小学生時に100墳を厳選しまとめ、自費出版で「岡山100名墳」を発刊した。専門家も絶賛する完成度の高さで、その豊富な知識量をもとに各地で古墳授業も行っている。

WONDERSHIP38

黄ニラ大使 植田 輝義 氏
兵庫県出身。牟佐の黄ニラ農家に婿入り。全身黄色の装いで自らを「黄ニラ大使」と名乗り、黄ニラの美味しい食べ方を県内外に宣伝。牟佐地区の黄ニラの生産量を大幅に増加させるとともに、市内で岡山名物として黄ニラのメニューを提供する飲食店も増やしてきた。

WONDERSHIP39

こーちゃんのアトリエ 宇田 光志氏

生後まもなくダウン症と診断を受ける。小さい頃から絵を描くことが大好きで、15歳からペン絵画を描き始め、現在もB型作業所でパンをつくる仕事をしながら、黙々と1,000点以上の作品を描き上げている。ご両親は光志君の才能を最優先に考え、大変な苦労の中で育てあげ、2016年6月に旧赤坂郵便局をリノベーションし「こーちゃんのアトリエ」を完成。多くの方々へ温かい光と心を広め、困難に負けないワンダーな生き方は多くの人を勇気づけている。